



Ryugasaki Saiseikai Hospital

# 産婦人科 Obstetrics & Gynecology

龍ヶ崎済生会病院 産婦人科

しげみつ さだひこ  
重光 貞彦

## <学歴>

- 1982年3月 筑波大学医学専門学群卒業
- 1990年3月 筑波大学大学院博士課程医学研究科生化系専攻修了（医学博士）

## <職歴>

- 1982年4月 筑波大学附属病院医員（研修医）
- 1983年7月 茨城県立中央病院産婦人科
- 1984年1月 筑波大学附属病院医員
- 1985年6月 株式会社日立製作所水戸病院  
産婦人科
- 1986年3月 筑波大学附属病院医員
- 1990年4月 筑波大学附属病院医員
- 1990年6月 東京厚生年金病院産婦人科医長
- 1991年7月 筑波大学臨床医学系講師  
（産科婦人科学）
- 2001年11月 龍ヶ崎済生会病院診療部長
- 2010年4月 龍ヶ崎済生会病院副院長

## <所属学会>

- 日本産科婦人科学会
- 日本産科婦人科エム・イー学会
- 日本生体医工学会
- 日本行動計量学会
- 日本健康科学学会

## <資格>

- 医学博士
- 日本産科婦人科学会専門医
- 母体保護法指定医
- 臨床研修指導医

## <ご挨拶>

日本の少子化が社会問題となって、いろいろな対策が打ち出されていますが、少子化対策の第一歩は安心してお産ができる様にすることではないでしょうか。多くの妊婦さんは10ヵ月の妊娠を順調に過ごし、元気な赤ちゃんを産んでいかれます。しかし、中には母体や赤ちゃんに病気が見つかることもあります。しかも、それが突然起こることもあります。ときに、生命の問題にかかわる場合もあります。いつ起こるか分からない母体や赤ちゃんの病気に適切に対応することが、産科診療の使命と考えています。

いま日本では、分娩を扱う産婦人科医が減っています。新生児を診てくれる小児科医も十分ではありません。助産師も同様です。しかし、安全なお産を目指すためには十分なスタッフが必要と考え、4名の産婦人科医と3名の小児科医、10名の助産師（2006年4月現在、研修医を含む）で産科診療にあたっております。

また、妊娠高血圧症候群や糖尿病合併妊娠などの様々な合併症をお持ちの妊婦さんは当院の内科医と協力して、また、胎児疾患が疑われるような場合は筑波大学と連携をとりながら拝見して参ります。低体重児・新生児医療については必要に応じて県内の新生児医療ネットワークを利用して診療していくこととなります。お蔭様で当院の分娩件数も年々増加し、2005年度は431件（うち帝王切開50件）でした。

婦人科領域も、子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣嚢腫、子宮脱など、手術治療を要する病気を中心に幅広く診療しております。また、悪性腫瘍につきましても、筑波大学附属病院等と連携してそれぞれの患者さんに最も適した最先端の医療を提供できるように努力しております。

赤ちゃんができない方に対しては一般的な不妊診療を行っておりますが、体外受精や顕微授精など高度な生殖補助技術を要する場合は専門病院等へ紹介いたします。

よりよいお産、よりよい診療を目指してスタッフ一同がんばりますので、何かございましたら遠慮なくご意見をお聞かせください。